

## 柴田町アクティビティサービス「いこいの日」促進事業

2025年には、後期高齢者が2,000万人以上となることが予想されており、高齢化の進展に伴い、単身や夫婦世帯のみの高齢者世帯や認知症高齢者が増加すると見込まれている。

こうした状況下において、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護となっても、できる限り住み慣れた地域で人生の最後まで尊厳をもって自分らしい生活を送ることができる社会の実現に向けて、「地域包括ケアシステム」を構築する必要があります。

保険外のサービスの活用を促進しつつ、互助を基本とした生活支援・介護予防サービスが創出されるような取り組みを積極的に進める必要が重要となることを踏まえ、重層的な生活支援や介護予防の取り組みを推進していくための研修会に取り組みました。

### ① 柴田町アクティビティサービス「いこいの日」促進協議会研修会

開催年月日	参加者	実施内容
H29. 5. 18	社協支部いこいの日 ボランティア 115名	<p><b>第1回「いこいの日」促進事業研修会</b></p> <p>講 演</p> <p>演題 地域づくりの視点「高齢者の社会参加」</p> <p>講師 社の伝言板ゆるる代表理事 みやぎNPOプラザ館長大久保 朝江 氏</p> <p>地域包括ケアシステムにおいては、その地域に暮らす住民自身の参加やボランティアなどインフォーマルな社会資源への期待が高まっている状況にあります。</p> <p>地縁・血縁に依拠した人間関係でなく、趣味、興味、身体活動、社会活動など、様々なきっかけによる多様な関係をもとに、互助をすすめなければなりません。高齢者の介護予防が求められるなか、社会参加することや社会的役割もつことが高齢者の生きがいや介護予防につながります。地域づくりを進めていくための戦略について情報共有を図ることを目的に開催した。</p>
H29. 7. 4	社協支部いこいの日 ボランティア 115名	<p><b>第2回「いこいの日」促進事業研修会</b></p> <p>講 話</p> <p>演題 健康長寿に向けて知っておくべき基本概念 「フレイル・サルコペニア予防のための食事」</p> <p>講師 柴田町健康推進課 栄養士 齋藤 夏美 氏</p> <p>高齢者の生活機能が低下し始める軽度の衰弱、すなわち健康な状態と要介護状態の中間の予防可能な状態を「フレイル（虚弱）」と呼ぶようになっています。</p> <p>これからの在宅高齢者にとって栄養管理は、フレイルや低栄養状態に陥らないために重要な課題として位置づけられています。</p> <p>栄養ケアを担う専門職である管理栄養士から、フレイルに的確に対応するための知識や理解を深めることを目的に開催した。</p>

<p>H29. 9. 29</p>	<p>社協支部いこいの日 ボランティア 130 名</p>	<p><b>第3回「いこいの日」促進事業研修会</b> 講 演</p> <p><b>演題</b> 地域包括ケアシステムについて 講師 柴田町地域包括支援センター 管理者兼主任介護支援専門員 相原 美由紀</p> <p><b>演題</b> 介護予防・日常生活支援総合事業について 講師 柴田町社会福祉協議会 主幹 加茂 三弥</p> <p><b>演題</b> 地域で支えること・生活を支える 講師 柴田町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター総括主任 伊藤 佐和子</p> <p>高齢者が要介護状態になっても居場所と出番とサービスが住み慣れた地域にあって、いい人生だったと思えるように、まちぐるみの支え合いの仕組みを構築として目標を掲げています。</p> <p>また、生活支援体制整備事業や新総合事業については、生活支援ニーズが高まる一方、介護人材などの専門職不足が指摘される中で、地域住民の主体による介護予防や生活支援の充実を図ることの重要性について共有を図ることを目的に開催した。</p>
-------------------	-----------------------------------	--

<p>H29. 11. 17</p>	<p>社協支部いこいの日 ボランティア 130 名</p>	<p><b>第 4 回「いこいの日」促進事業研修会</b> 講 演 演題 「医療・介護の連携」 地域包括ケアシステムを構築するために ～医療・病院をめぐる視点から～ 講師 仙台オープン病院 医療ソーシャルワーカー 八重樫 祐子 氏</p> <p>地域で 2025 年に向けた病床の機能分化と連携を推進し、あるべき医療提供体制の実現をめざす「医療構想」も今後の医療政策の基軸となります。</p> <p>また、高齢化の進展に伴う慢性疾患の増加により、疾病構造が変化し、医療ニーズについては、病気と共存しながら、生活の質（QOL）の維持・向上を図る必要性が高まってくる。一方で、介護ニーズについても、医療ニーズを併せ持つ重度の要介護者や認知症高齢者も増加するなど、医療・介護の連携が、これまで以上に求められてきます。</p> <p>団塊世代が後期高齢者になる 2025 年以降に備えていくための「医療・介護の連携」及び医療・病院をめぐる視点から、地域の病院の事情について理解することを目的に開催した。</p>
<p>H30. 2. 2</p>	<p>社協支部いこいの日 ボランティア 101 名</p>	<p><b>第 5 回「いこいの日」促進事業研修会</b> 特別講演 演題「ソーシャルキャピタルと健康」 ～公衆衛生を通じた健康づくり～ 講師 仙台白百合女子 人間学部健康栄養学科 准教授 鈴木 寿則 氏</p> <p>健康には生活習慣のみならず、地域の絆やつながり（ソーシャルキャピタル）も影響を及ぼすと言われており、今後の健康づくりは地域住民一人ひとりの主体的な取り組みに加え、健康づくりをしやすい地域や人とのつながりの醸成が重要です。</p> <p>より多くの人に、社会がより健康になるための社会疫学アプローチ、公衆衛生的アプローチについて理解を深め、健康的な社会をつくるための情報を提供することを目的に開催した。</p>